

1 研究主題

(令和6～7年) 2カ年継続研究(2年次)
「未来を切り拓き 豊かな社会を創り出す日本人を育成する渡島小中学校教育」
～ 令和の日本型学校教育を充実させ、変化に対応できる持続可能な学校経営 ～

2 研究推進の概要

第19期研究主題の解明にあたり2カ年継続の2年目とし、以下により研究を推進する。

(1) 研究推進の基本

研修部研究の中学校部会として、研究を推進する。会員全員が、研究主題を自らの課題としてとらえ、実践研究を行う。また、渡島小中学校長会WEB研修会において研修部研究について研究協議を行い、意見集約をし、研究紀要にまとめる。

(2) 令和7年度の研究

- | | |
|----------|--|
| ① 4月 | 研究推進計画の検討・確認(校長会総会)及び研修部研究の推進 |
| ② 5月～7月 | 渡島小中学校長会WEB研修会の準備と実践研究推進
研修部通信第58号発刊
渡島小中学校長会WEB研修会の開催 |
| ③ 9月～10月 | 道小・中、全連小・全日中研究大会への参加 |
| ④ 11月 | 渡島小中学校長会WEB研修会の反省 |
| ⑤ 12月 | 年間研究の反省とまとめ |
| ⑥ 2月 | 研究紀要の発刊および次年度研究計画の作成・確認 |

3 研究の成果と課題

第19期2カ年継続研究の最終年度である本年度は、研究主題『「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成』に基づき、「教職員の豊かな人間性や指導力の向上」を研究の視点として、第66回北海道中学校長会研究大会胆振・室蘭大会における提言発表の準備に取り組んだ。人材育成の現状や課題に関わるアンケートを実施し、渡島管内の実態を把握するとともに、各校の取組事例について交流を図った。また、7月に実施した渡島小中学校長会WEB研修会において、中学校部会員間で提言内容を共有・協議し、その成果を踏まえ、9月の同大会において発表することができた。

【成果】

- ・人材育成に関する各校の取組を共有したことで、校長同士が持つ発想力、課題解決力を学び合い、今後の実践に生かすことができた。
- ・人材育成について課題と対策を渡島全体で共有したことで、校長の任期に依存せず取組を継続する見通しが得られた。

【課題】

- ・人材育成は短期間で実現できるものではなく、校長同士のリレーのような連携が一層大切になる。
- ・後継者不足という喫緊の課題に対し、具体的な対策を講じることが急務である。
- ・人材育成の環境づくりは、教育局及び市町村教育委員会とのより緊密な連携が不可欠である。

1 研究主題

研究主題 「未来を切り拓き 豊かな社会を創り出す児童生徒を育成する渡島の教育の推進」
 ～ 令和の日本型学校教育を充実させ、変化に対応できる持続可能な学校経営 ～
 【小中共通研究課題】
 持続可能な学校運営を支える「経営チーム」の構築と人材育成

2 研究主題設定の趣旨

予測困難な変化の時代にあり、学校教育は大きな転換期を迎えているとともに、多様な教育的ニーズへの対応など、学校が抱える課題は一層複雑化・多様化している。こうした状況の中、学校の教育力を最大化し、子どもたちに主体的に社会に関わり、他者と協働しながら新たな価値を創造し、持続可能な社会の担い手として生きる力を育成することが求められている。そのためには、組織の在り方を不断に見直し、全教職員が当事者意識をもち主体的に行動する自走型組織への転換が不可欠である。

以上を踏まえ、上記研究主題を設定した。

3 研究内容

【小中別研究課題（中学校部会）（3カ年継続研究：1年次）】

学校と地域の連携・協働による「チームとしての学校」と「働き方改革」の実現

4 研究推進計画

研究課題の解明にあたり、今年度から「小中共通研究課題」と「小中別研究課題」を設定して、以下により研究を推進する。

(1) 研究推進の基本

研修部研究の中学校部会として、研究を推進する。会員全員が、研究主題を自らの課題としてとらえ、実践研究を行う。また、渡島小中学校長会研究大会において研修部研究について研究協議を行い、意見集約をし、研究紀要にまとめる。

(2) 令和8年度の計画

- ① 4月 研究推進計画の検討・確認（校長会総会）及び研修部研究の推進
- ② 5月～7月 渡島小中学校長会研究大会の準備と実践研究推進、
渡島小中学校長会研究大会の開催
- ③ 9月～10月 道小・中、全連小・全日中研究大会への参加と提言準備
- ④ 11月 渡島小中学校長会研究大会の反省
- ⑤ 12月 年間研究の反省とまとめ
- ⑥ 2月 研究紀要の発刊および次年度研究計画の作成・確認

5 研究組織

